真理通信　第 102 号　令和2年(2020年)3 月 1 日発行

巻頭

都大路(みやこおおじ)に　　棄てられし
塵芥(ちりあくた)の　堆(つみ)の中にも
げに　　香(かおり)たかく　　こころたのしき
白蓮(びゃくれん)は生ぜん　　(法句経　58)

◇新：法句経講義６０◇

＜※「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。＞

423 偈(重複1偈)ある法句経のなかで、最も人気のある偈のひとつがこの 58 番だと思います。特に第2次世界大戦の後、多くの集会でこの偈が取り上げられていた記憶があります。打ち捨てられた都会のゴミのなかにも、美しく香り高い白蓮は咲くという教えは、荒廃した世相を乗り越えようとする人々に大きな勇気を与えるものだったように思います。

とはいえ、この教えは2千数百年前のインドの教えに違いありません。どんな時代であっても、どんな国であっても、荒廃した世相のなかでも気高く尊いものは残り、再び咲きだすという確信、希望は必要です。それがあるからこそ、それを信じるからこそ、どんな苦しみからでもまた歩き始められるのです。

近年、あちこちで大きな自然災害が起こっています。台風、水害、地震など、どうしようもない自然の力によって、今まで積み上げてきた努力が一瞬にして消し飛んでしまう。そんな事態を乗り越えていくのも、復興への確信であり希望であるはずです。

様々な経験から発した知恵や確信、その集大成がお経というものです。特に、法句経など初期経典には、それが分かりやすく説かれています。

叙　景　　表紙を語る

春に咲く花のなかで、チューリップほど多く栽培されているものはないように思います。年末のホームセンターで球根を買ってきて、毎年のように植えるようになって何年になるでしょう。球根は、一度寒冷な温度にさらされないと発芽のスイッチが入らないと植物学者の方に教えて頂きました。

暖冬が続いて、スイッチが入らない球根になったら大変です。今年も春の庭先に、きれいに咲きそろったチューリップを見たいものです。

＜　*主管所感*　＞

歩 く 保 育　　友松 浩志

もともと歩き回るのが好きだったせいか、学生時代には熱心に山登りをして、いっぱしの登山家気取りだった私だから、幼稚園の仕事をするようになった時、子どもたちと長い距離を歩く保育を始めた。

まず神用寺幼稚園で始めたのが、東京タワーまで歩く遠足である。「遠足|なんだから遠くまで歩くんだとか理屈を言って、先生たちがビクつくのを尻目に歩かせた。もっとも初めは慎重に、園バスを後方にしのばせて、ゆっくり着いてきてもらって、万が一「歩けない」などと「くじける子」がいたら収容するつもりだった。実際は、途中の日比谷公園で弁当など食べれば、子ども達はなんなく歩き通した。

八王子に真理学園幼稚園をつくると、向かいの山のうえに観覧車が見えた。多摩テックというホンダがやってる遊園地だった。「あそこまで歩こう」ということで、これもなんなく征服した。観覧車にのると幼稚園が見えた。

ところが、数年たつと多摩テックがなくなった。子どもは本能的に面白いものが終点にないと納得しない。東京タワーや観覧車が必要だ。そして無理無理、「読売ランド」まで歩くことになった。これは正直、大変な距離だと思った。尾根幹線という途方もなくダラダラした、誰も歩くなんて考えもしない道を１０数キロ歩くことになった。とはいえ、子どもは大したものだ。終点にゴンドラがあったり、メリーゴーランドがあるだけで歩いた疲れは消し飛んでしまう。疲労コンパイするのは。初老に達した元登山家だけである。

歩く保育をして良かったと思う。子どもと歩けて楽しかったと砒う。もし、子育てに悩む人がいたら、子どもと一緒に歩いたらいい。声をかけあい、励ましあって。同じものを見ながら歩いたらいい。疲れたら一緒にやすみ、同じものを食べながらバカ話しをする。人生それでいいんだと思う。だから人生、なつかしいんだと思う。

仏教豆知識　80	方便

方便（ほうべん）には、「うそも方便jを思い浮かべるように「方法」「手段」という意味があります。サンスクリット語のウパーヤ（upāya）の訳語で、接近する、到達するという動詞から、人を導く方法を言います。善巧方便（ぜんぎょうほうべん）というのは、巧みな方法で人を導くこと。その人に合った方法、素質に合わせた方法で人を導くことを言います。

一方で「方便」には、目的達成のために便宜的に利用する手段という意味もあるので、　「こんな方便を使った」というのはあまり良い印象を与えません。人を導くのに「うそ」を使うのは、言うまでもなく正しい方法ではありません。

◆公開保育と研究協議会◆

幼稚園における預かり保育を考える

昨年の 9 月 24 日、東京都教育庁と東京都私立幼稚園教育研修会共催の研究協議会が神田寺幼稚園で開催され、都内の公立、私立幼稚園や保育園の先生方約 70 名が来園され、公開保育と研究協議が行われました。 今回の研究テーマは幼稚園における「預かり保育」。近年活発に行われるようになった預かり保育も、 約 40 年前に神田寺幼稚園で始めた頃はほとんど知られていない、未知の保育でした。全体会でまず当園の 40 年にわたる保育実践を報告したあと、通常保育とのつながりや、長時間の保育が子ども達に与える影響や課題について問題提起を行い、実際の保育を見たあと小グループに分かれて、参加者全員熱心に討議を行いました。

△　公開保育のあと討議する参加者

◆餅つきを楽しむ◆

年末（神田寺幼稚園）と年始（真理学園幼稚園）に本年も餅つきを行いました。伝統の行事として継続していますが、ノロウィールス対策として実際に食べるのは切り餅。ついたお餅は子ども達が鏡餅にしました。また本物のつきたてのお餅が食べられる日がくることを心から願っています。

△　お父さんが大活躍

真理通信　第 103 号　令和2年(2020年)7 月 1 日発行

巻頭

粗（そあら）ならざる　　義（わけ）をふくめる
実話（まこと）を語り
そのことばによりて　　いかなる人をも
怒（いか）らしめざるもの
われかかる人を　　婆羅門（ばらもん）とよばん
（法句経　408）

◇新：法句経講義６１◇
＜※「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。＞

言葉の暴力は、いつの時代にもあったらしい。

コロナでの外出自粛のなか、インターネットの画面を見ていると、いろいろな記事や画像に様々な感想や意見が書き込まれていた。確かに、共感できる参考になる意見もあったけれど、独断的で不快なものもたくさん見られた。

「ネットいじめ」というのか、テレビタレントが中傷されて自殺したり、表に出なくてもトラブルは相当あるらしい。本人に直接言わなくても、ネットに書き込むだけで、人は傷つけられ、窮地に落とされる。

法句経には「粗（そあら）ならざる」「義（わけ）をふくめる］「実話（まこと）を語り」とある。乱暴でない言葉で話すこと、道理にかなった話をすること、嘘でない本当の話をすること、と説かれている。テレビのコメンテーターの話しなど大丈夫だろうか。国会の議論でも、乱暴であやしげな言葉がたくさん聞かれる。

言葉を大切にし、相手を怒らせないように話す。こんな当たり前のことを、人はなかなか出来ない。いや、こんな当たり前のことを実践するだけで、人は仏への道に導かれるとも言えるだろう。

叙　景　　表紙を語る

初夏、梅雨晴れの日に、緑のなかに出かけていった遠い記憶。さわやかな風に吹かれ、友だちと走っていった木立ちのなかで、咲き始めた花を見つけ、虫を探した美しい時間。

大きな木の下に、まとめて置かれたリュックサック。子どもたちはどこで遊んでいるのだろう。リュックのなかで、お弁当が待っている。

東京都心の緑のオアシス、小石川植物園で撮った一枚です。

＜　主管所感　＞

時間の意味

友松 浩志

コロナに振り回された３ヶ月、いやまだまだ続くかも知れない。こんな日々を誰が予想しただろう。占いや易には出ていたのだろうか。昔ペストが流行した時は、天然痘の時にはなどなど、確かに人類はもっと悲惨な体験をしてきたのかも知れない。でもそれが現実となると、出来ることは衛生管理くらいしかない。

お寺にお参りがない。途中の電車のことなど考えれば、当然のことだ。お寺参りは不要不急である。ご先祖様は、待っていて下さる。幼稚園が開けない。総理大臣から休んでくれと言われれば、開くわけにもいかない。去年の幼児教育無償化で、保育料のほとんどを国が保証してくれるようになったので、何とか息がつけた。それがなかったら、職員ともども路頭に迷っていただろう。

人生、何か起こるか分からない。それを誰もが知っていて、気づこうとしない。いや、気づかないフリをしている。でも、だから人生は生きられるのかも知れない。死の恐怖、災害の恐怖、病気の恐怖、それに常にとらわ

れていたら、人は怖くて生きていけない。

フランクルという精神科医が書いた「夜と霧」という本が、随分読まれた時があった。第２次世界大戦の末期、ユダヤ人の彼は、ナチスに捕らえられて強制収容所に送られる。そして２年間、死の恐怖のなかを過ごす。その時の体験を書いたのがこの本である。

強制収容所に入ったからといって、人々は絶望しきっていたのではない。夕日の美しさに感動し、お互いの会話を楽しんでもいた。フランクルは「どんな時にも、人生には意味がある」と言う。死の前に立っても「今すべきことは必ずある」と言う。

家に閉じ込められた自粛生活、それはまったく意味のない時間だったのだろうか。人生に意味を見いだすのが自分自身であるように、今、この時間に意味を見いだすのも、自分自身である。そして今すべきことを、しっかりと考えたいものだ。

◆仏教勤行式　新版出来◆

ー　より使いやすい内容に　ー

神田寺で使用している「仏教勤行式」（ぶっきょうごんぎょうしき）は、先々代住職の友松圓諦師が昭和のはじめに、当時進めていた「真理運動」で使用する目的で、友人の方々と編纂したものです。そのため、仏教徒ならどの宗派の方でも使用できる内容でつくられています。特色はすべて「和文」であること。お経というと、普通はお坊さんが漢文で音読していきますが、それでは意味が理解できません。それを和文にして、参会者が「全員で一緒に読む」のがこのお経の特徴です。

とはいえ、このお経も編纂して 100 年近くなり、言葉づかいも現代人には難解になってきました。そこで今回は以下のことを中心に改訂を行いました。

①ルビ（ふりがな）を増やし、読み間違えがないように徹底しました。

②句読点を明確にして、読み方の統一をはかりました。

③後半の「観音経」「遺教経」の活字を大きくして、読みやすくしました。

※新版は、檀信徒の方には秋の彼岸会からお配りして使用します。檀信徒以外で興味のおありの方には、１部 100 円で販売致しております。お問い合わせ下さい。

仏教豆知識　８１　　施餓鬼

施餓鬼（せがき）とは「餓鬼（がき）」に施しをすること。「餓鬼」とは「死んだ人」か　「死んだが、まだ供養されていない人」を言う。餓鬼にはいろいろな種類があって、水が飲みたいのに飲めない餓鬼、ものが食べたいのに食べられない餓鬼、食べようとするものがすべて火になってしまう餓鬼など、死後も苦しみ抜いている。その餓鬼に食物を施すのが「施餓鬼」法要で、お盆の時に行われることが多い。お盆の時つくられる「施餓鬼棚」　（精霊棚）は餓鬼のために低くつくられ、水や食物などが飾られる。亡くなった人を大切に思い、先祖に感謝する伝統習俗である。子どものことを「餓鬼」というのは、子どもはいつもお腹をすかせているからと言われる。

■　西墓地の休憩所建設　■

ー　西墓地別院・完成間近となる　ー

・昨年より建設を進めてまいりました当寺・西墓地休憩所（西墓地別院）が間もなく完成します。七月のお盆のお参りからは、新しい建物から墓地に入って頂ける予定でおります。（西側道路からが入口となります。）・建物１階には男女別トイレや休憩施設、２階には礼拝堂が出来ます。お参り用の水場、水桶置場なども新設され、広く使いやすくなります。

・すでに多くの皆様にご支援を頂いておりますが、年内は勧募を継続しておりますので、宜しくお願い申し上げます。

△　完成間近の建物

真理通信

第 104 号　令和2年
(2020 年)12 月 1 日発行

巻頭

事の起(おこ)るときこそ　友をもつは幸いなり
いずこより来るとも　満足はたのし
功績(いさおし)は
生命(いのち)のつきるときにも　幸いなり
ありとある苦(くるし)みの　断滅(たちきり)こそ幸いなり
(法句経　331)

◇新:法句経講義62◇
＜※「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。＞

コロナ対策でマスクを着け、人との間隔をあけ、なるべくしゃべらないようにしていれば、人と人との交流は減り、関係も薄まっていくのは当然のことです。

メールやSNSがあるからと言っても、それは手紙のやりとりみたいなもので人間本来の交わりとは言えません。顔を合わせ、言葉を交わし、手を握り合って人は人との関係を築き、心をつなげてきたのです。

コロナ対策のテレワークや遠隔授業が、まるで「新時代」の人の生き方の理想のように吹聴する人がいますが、それは大きな誤りです。人は人と出会って、人とともに生きて初めて「人」となり「人間」となるのです。

お釈迦様は、孤独を尊ばれ、無欲を尊ばれましたが、同時に雨後の安吾（あんご）に弟子が互いに教え合い、励まし合うことも推奨されました。「よき友」を持ち「よき目覚め」に達すること、それこそが「苦」を乗り越える道なのです。

一日もはやく、コロナ対策の医薬品が完成することが待たれます。人類はこれまで多くの病気を克服してきました。叡智を集め、力を合わせ、未来を築いていく、今こそその時です。

叙　景　　表紙を語る

冷たい冬の風に吹かれて無人の駅舎に入ると、立派な待合室があった。列車を待つあいだ、ちぢこまって掲示物などを見ていると、この町の人の暮らしが、少し分かるような気がした。

ここでの語らい、出合い、別れ、いろんなものが、冷たい空気の中にゆっくり漂っているような、そんな静かな時間だった。

九州・久大本線、善導寺駅で撮った一枚。善導寺は浄土宗の本山のひとつ。駅から徒歩 15 分位。久大本線は今年 7 月の豪雨で大きな被害を受けた。

＜　主管所感　＞

人の苦しみ

友松 浩志

コロナの苦しみが、相変わらず続く。といって、その「苦しみ」は、人によって様々である。マスクを着けるのが面倒とか、「巣ごもり」で体重が増えたかというのはご愛嬌。コロナで仕事がなくなったり、収入が激減して閉店・廃業に追い込まれるところも見られるようになった。一部潤っている業種もあるようだが、それは限られたケースだ。

人というのは、なかなか「他の人の苦しみ」が分からない。客が来ないと言われても、何とかなるだろう位に思い、病院に見舞いに行っても病人の痛みはほとんど分からない。

コロナに感染した人に対する差別や中傷が問題になっている。「うつる」病気だから、「遠ざけ」「忌避」し

ようとする。愚かな行為だが、そうしたことは以前からあった。

昨年の夏、（今考えると夢のようだが）飛行機に乗り、妻と娘と3人で沖縄の宮古島に行った。南国のリゾートとして脚光を浴びている島、その透明でブルーの海に圧倒され、借りたレンタカーであちこちドライブした。この旅には一つの目的があった。それは、島の北部にある「宮古南静園」を訪れること。南静園は、日本各地につくられたハンセン病療養所のひとつで、そこに医師として長く勤められた馬場省二先生は、私の祖父と長い交流があった。私自身も、何回かお手紙を頂いたことがあって、馬場先生が仕事をされた場所を、是非見ておきたいと思った。

幹線道路からはずれてしばらく進むと、海岸に下る細い道があり、そこから眺めると、海岸線にそって大きな施設があった。本館に、ハンセン病や南静園の歴史についての展示があって、馬場先生を覚えている職員から話を聞くこともできた。多くの患者を隔離したハンセン病も、その感染力が強くないことが分かって、今では入所者も減ったが、ここで仕事を続けた先生の生き方を思った。

「人の苦しみ」を分かるのは難しいことだ。まして、ハンセン病の人たちの苦しみと向かい合い生涯をつくされた馬場先生の生き方。それは、「人の苦しみ」を「我が苦しみ」として生きることだったのではないか。それは、人として最も尊い生き方だったと思う。いつの間にか、静かな夕暮れの光が、南静園に差しこんでいた。

◆夏の花火を楽しむ◆

ー　コロナの夏の思い出に　ー　今年の幼稚園の行事は、コロナのために大幅な変更や中止となっています。年長児の夏のお泊り保育も、残念ながら中止となりましたが、少しでも夏の思い出をと、「花火」を楽しむ会が両園で行われました。

先生たちによる吹き上げ花火や打ち上げ花火。子どもたちも一人ひとりが手持ち花火を持って少し恐るおそるでしたが、夏の花火を楽しみ、小さな思い出を作りました。

年度末に向かい、少しでも楽しい思い出が残る日々を過ごしていきたいと思います。

◆西墓地別院完成◆

長年の念願だった「神田寺西墓地」に休憩所と小さな仏堂が完成しました。木造2階建て、1階は墓地までまっすぐ入るホールになっていて、長椅子や男女トイレがあります。2階は高い天井の椅子席の仏堂。小さな法要はここでも可能です。

檀信徒の皆様には、多くのご寄付や浄財を頂きました。年内で勧募を終了し、来春には名簿を作成して収支をご報告致します。本当にありがとうございました。

▽　1階ホール・右手に2階への階段

▽　2階仏堂　　板張りの椅子席

仏教豆知識　８２　　億劫

億劫（おっくう）とは、面倒くさいこと。本来は「おっこう」と読んで、億の劫（こう）があることを言う。「劫」というのは、サンスクリット語の kalpa という言葉を音写して中国で作られたもので、「ものすごく長い時間」のことを言う。一辺が 10 数キロの大岩を百年に一度やわらかい布で拭って、その岩が無くなっても終わらない時間の長さが「一劫」、それが億あるのだから、ほとんど永遠の長さである。

それで「億劫」は、長くかっかてやり切れないこと、面倒くさいということになる。未来永劫（みらいえいごう）という言葉にも「劫」が入っている。インド人は、「０（ゼロ）」を発見したように、数量や長さに関心が深く、様々な用語や概念を作ってきた。

■　令和３年　　年回表　■

	（没年）		（没年）
１　周　忌	令和２年	33　回　忌	昭和６４年・平成元年
３　回　忌	令和元年・平成３１年	37　回　忌	昭和６０年
７　回　忌	平成２７年	43　回　忌	昭和５４年
13　回　忌	平成２１年	47　回　忌	昭和５０年
17　回　忌	平成１７年	50　回　忌	昭和４７年
23　回　忌	平成１１年	70　回　忌	昭和２７年
27　回　忌	平成　７年	100　回　忌	大正１１年

○　土日に法要を希望される方が多いため、予約は電話でお早めにお願い致します。

・参加人数、塔婆をあげる方のお名前などは、１週間前までにお知らせ下さい。

・当日は位牌をご持参下さい。お寺に車２～３台駐車可能。タクシーも呼べます。

○　西墓地別院での法要希望の方は、必ずその旨のお申し出をお願いします。
他の法要との関係で、実施できない場合もありますのでご了承ください。